

## 歴史軸 景観形成のコンセプト

歴史軸は、高麗山への眺めとともに多くの寺社や史跡が点在する、かつての宿場町のあった旧東海道沿いの区域です。自治会や商店会等区域内の住民が主体となり、様々な景観まちづくり活動が展開されています。景観づくりの基本方針は、旧東海道にまつわる歴史の発掘と高麗山への眺望をいかしながら、平塚宿のにぎわいを再生したまちなみの形成を目指します。

### ① 周辺との関わりを考える

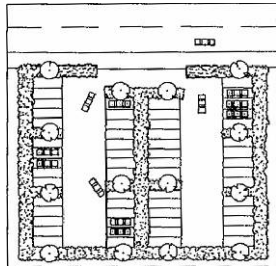
#### 位置・配置

##### ■ 建物

- 周辺の建物と壁面のラインをできるだけ揃え、沿道のリズムを乱さないようにしましょう。
- まちかどの建物は、角地部分の壁面後退距離を大きくとり、まちかど広場の創出に努めましょう。

##### ■ 駐車場

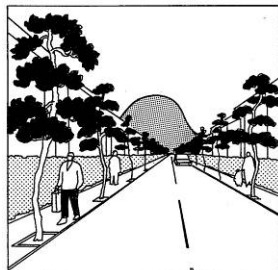
- まちなみやそのにぎわいを分断する駐車場の出入口は、通りに面して設置しないようにしましょう。やむを得ない場合は、出入口を一箇所に集約して出入口の面積を最小限にし、植栽を設けたりデザインを工夫するなどして、にぎわいの連続を確保しましょう。



#### 高さ・規模

##### ■ 建物

- 建築物の高さは、高麗山への見通し線の確保を図るよう、高麗山の視線を妨げない高さに配慮し、屋上設備類の露出や屋上看板の設置がないようにしましょう。



### ② 質を高める

#### 外構・緑化

##### ■ 緑化

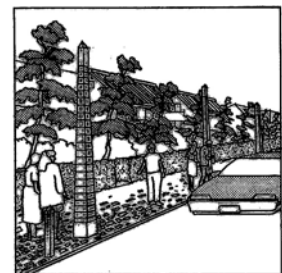
- 通りに面する境界部へ植栽を行う場合、樹種は四季を通じて緑豊かな雰囲気があり、旧東海道の松並木を思わせるような松を中心とする常緑樹を用いるようにしましょう。



- まちかどに設けた空地には、木かげを創出したり、まちかどのめじるしとなるよう、シンボルツリーを設置しましょう。

##### ■ 塀・生け垣・フェンス

- 住宅の周囲は、ブロック塀や金網フェンスの使用を避け、生垣化に努めましょう。
- まちなみの雰囲気にあった瓦屋根付土塀等は積極的に保存・活用しましょう。

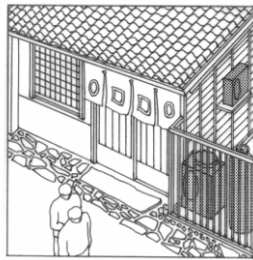


### ③ まちなみを彩る

#### 形態・意匠

##### ■ 建物の形態意匠

- 建物は、旧東海道の歴史や高麗山への眺望に配慮し、周辺に圧迫感を与えないデザインとするよう努めましょう。
- 建築物は、街道筋や宿場町としての歴史を感じさせるデザインを基調とし、「格子」「のれん」「飛び石」「石垣」など、古来のまちの空間にあった要素をいかして具体的なデザインを展開しましょう。



- 外壁や建具の素材は、歴史的な雰囲気を大切に、竹材や木材などの「和」を感じさせる、年月の積み重ねで風格や味わいを増す素材を使用するよう努めましょう。
- 歴史軸内の建物のデザインは、一階部分の軒高や見切り線をそろえるなど、通りからの見え方に配慮しましょう。
- 東海道本通りに面する建物のデザインは、屋上設備類の露出や屋上看板等の設置が難しい屋根形状（傾斜屋根等）とし、地域の歴史や高麗山への眺望に配慮しましょう。
- ランドマークとなるまちかどの建物は、まちかど広場と合わせて、地域の特性に配慮したデザインの建物としましょう。
- アーケードは設置しないようにしましょう。

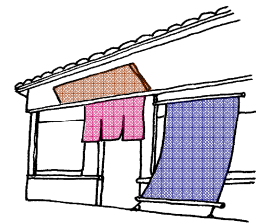
##### ■ 建物の色彩

- 建物の色彩は、周辺と調和しない原色や突出色を避け、彩度の低い落ち着いたものとしましょう。
- 伝統色は地域性に根ざしたものであり、自然や周囲の環境とよく調和します。これらを積極的に活用し、風格と落ち着きをもたせましょう。

#### その他

##### ■ 広告物・サイン

- 広告物は、雑然とした印象とならず、すっきりと存在感を主張できるよう、数や大きさ、色づかいなどのデザインを工夫しましょう。
- 周辺の環境や設置する建物との調和を図りましょう。
- 広告物のデザインは、旧東海道の歴史や高麗山への眺望との調和に配慮しましょう。特に色彩は、原色や突出色を避け、まちなみや建物と講和した落ち着いたものとしましょう。
- 広告物は、石、木、鋳物、布などの和の素材を積極的に使用しましょう。



- サインは、必要な情報の伝達のみでなく、わかりやすさ、適切な配置と内容・美しさ・周辺環境との調和をもった統一と秩序あるものに配慮しましょう。
- 旧街道筋の歴史的な資源へのアクセスルートの案内や説明のため、周辺環境に調和したわかりやすく集約されたサインを計画的に配置しましょう。

##### ■ 演出

- 時間帯や季節・場所に合わせて、ライトアップを行うなど、地域の特性を感じさせる魅力的な夜景づくりを行いましょう。



右写真：湘南邸園文化祭での崇善公民館のライトアップ

- 歴史軸では、周辺の環境を考慮して、目に見える風景とともに存在する、その場にふさわしい音を大切にしましょう。また、空間的な余裕がある場合は、自然を感じさせる水音の演出なども効果的に活用しましょう。
- 旧東海道の歴史にちなんだ、まつりやイベントを開催し、個性ある景観づくりを行いましょう。